

◀「報告書詳細版」は巻末の付録USBメモリに収録しています▶

第22部

WIDEネットワークの現状(概要版)

遠峰 隆史、近藤 賢郎、TWO WGメンバ

第1章 はじめに

WIDEバックボーンネットワークは国内はもとよりSan Francisco, Bangkokなど海外にも拠点(NOC, Network Operation Center)を持つ広大なレイヤ2およびレイヤ3ネットワークである。

WIDEバックボーンネットワークは各接続組織の対外接続ネットワークとして活用されるだけではなく、インターネットの新技术を開発している研究者、開発者らの新技术の運用実験の場としても頻繁に活用されている。

WIDEバックボーンネットワークの運用はTWOワーキンググループに参加する各NOCの運用者による定常的な運用に支えられている。図1は2018年12月31日現在のWIDEバックボーンの概略図である。

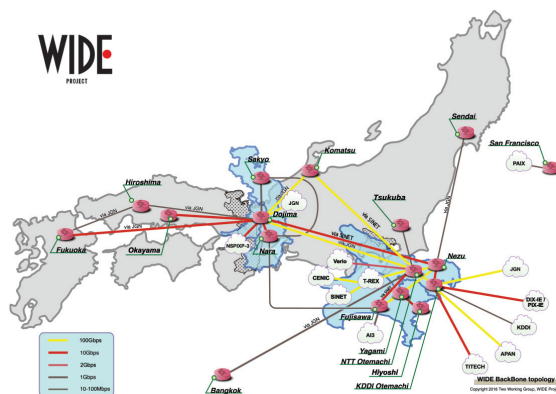


図1 WIDEバックボーントポロジ

第2章 本年度の活動

本年度はバックボーンを構成する100Gbps, 10Gbps回線に基づくWIDEバックボーンの運用を行った。また、昨年度に発足した組織内CSIRT組織であるWIRTが本格的に稼働を始めた。

2.1 NOC Update

NTT大手町NOC, 根津NOC, 矢上NOC, 藤沢NOC間回線, 小松NOCへの接続回線の100Gbps化を踏まえ, 100Gbpsバックボーンの安定運用に努めた。それに付随する機材や回線のアップデートを行った。詳細に関しては、報告書詳細版を参照していただきたい。

2.2 WIRTの活動

WIRTはTWO WGに所属する一部メンバにより構成された組織内CSIRTであり, WIDEバックボーン及びその接続組織に関わるインシデントの発生を把握しその収束までのレスポンスを管理する。本年度はRFC2142に基づくPoCアドレスとなるabuse@wide.ad.jpにWIRTメンバが加入した上で, インシデントレスポンスを実施した。また日本シーサート協議会(NCA)や学術系シーサート交流ネットワークを中心に, インシデント事例分析や脆弱性情報のCSIRT間の共有・連携を進めた。

第3章 来年度の活動予定

来年度は, 今年度に引き続き100Gbpsバックボーンの運用実験に加え, セキュリティ体制の構築および強化を推進する予定である。またWIDEバックボーンの再設計・再実装に関わる議論を進める予定である。